法学部教務課長
田中　秀樹

教員とともに、学生とともに歩み続けた50年

龍谷大学法学部創設50周年、誠におめでとうございます。半世紀という長きに亘り、本学法学部が連綿と発展を続けてきたことは、これひとえに、法学部で教育、研究、大学運営にご尽力いただきました先生方や、その先生方の厳しくも温かい指導の下、学修、研究に邁進してこられた卒業生、在学生の皆様の、まさに努力の賜であると存じます。まずは関係各位に対し、事務職員を代表して、心からお祝いと御礼を申し上げます。

さて、まるで人ごとのような冒頭挨拶でありましたが、我々事務職員も、専任およそ70名、アルバイト等を含めると100名以上もの職員が、1968年の法学部開設以来、法学部教務課（法学部事務室など名称は変遷していますが）で教務事務に携わらせていただいております。かく言う私も、2001年度から2007年度までの7年間は課員として、2017年度からは課長として、法学部教務課で勤めさせていただいております。その中で実感することは、龍谷大学の法学部は、教員と学生、教員と事務職員、学生と事務職員、それぞれの距離が実に近いということ。特に、2001年度にスタートしたクラスサポーター制度は、龍谷大学法学部が全国に先駆けて導入し、初年次教育のあり方に一石を投じた全く斬新な制度ですが、これこそまさにその象徴ともいうべき制度であると思います。教員と学生が法学部の初年次教育をともに考え実践し、事務職員がそのサポート（時には教員や学生の愚痴を聞いて双方の仲介に入ったこともありましたが……）を行う。私がゼミを担当していた当時、クラスサポーターの学生達と夜遅くまで膝を突き合わせて、どうすれば年配の先生方と新入生をうまくマッチングできるのか、そもそも初年次教育とは何なのか、どうあるべきか等々、侃々諤々の議論を行ったことは、未だに色あせることなく私自身の良き想い出として残っています。このような教職学生間の光景は、他大学では見られない、まさに龍谷大学法学部ならではの特長であると思います。

1968年の開設以来、龍谷大学法学部は、建学の精神の下、激変する時代の中でも揺るぎない教育理念に基づいた教育研究を実践し、時代に即応した変革に今なお取り組んでいます。龍谷大学法学部がますます魅力ある教育研究を実践し、世界で輝ける存在となれるよう、我々事務職員一同、教員とともに、学生とともに、これからも一層努力してまいります。